

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウカシノ オテマエカクエン 学校法人 大手前学園								
フリガナ大学の名称	オテマエカクエンカクイン 大手前大学大学院 (Otemae University Graduate School)								
大学本部の位置	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号								
大学の目的	大手前大学大学院は学部教育の基礎の上に、広い視野に立って高度かつ、専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて社会の発展と文化の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	国際看護学研究科は、高度な看護実践能力を基に、グローバル社会に暮らす多様な背景をもつ人々を対象に、人々の健康支援と幸せに貢献することを使命として、多様な健康課題に取り組み、より良い看護を探求し、他の学際的な専門領域とも協働して課題解決を図るグローバル人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 国際看護学部看護学科 14条特例の実施
	国際看護学研究科 [Graduate School of Global Nursing Science] 看護学専攻 [Division of Nursing Science] 計	年	人	年次人	人	修士(看護学) [Master of Nursing Science]	令和5年4月 第1年次	大阪府大阪市中央区 大手前2丁目1番8 8号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>大手前大学</p> <p>○収容定員変更に係る学則変更 経営学部 経営学科 [定員増] (170) (令和5年4月) (2年次編入学定員) [定員増] (2) (令和6年4月) (3年次編入学定員) [定員増] (7) (令和7年4月) 国際日本学部 国際日本学科 [定員減] (△30) (令和5年4月) 建築&芸術学部 建築&芸術学科 [定員減] (△10) (令和5年4月) 現代社会学部 現代社会学科 [定員減] (△20) (令和5年4月)</p> <p>○名称変更 総合文化学部総合文化学科 → 国際日本学部国際日本学科 (令和4年4月)</p> <p>大手前短期大学</p> <p>○収容定員変更に係る学則変更 歯科衛生学科 [定員増] (70→80) (令和4年4月) ライフデザイン総合学科 [定員減] (150→100) (令和5年4月) (届出予定)</p> <p>○学部等の設置届出 (予定) 医療事務総合学科 (50) (令和5年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位 61単位 61単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	国際看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	人	人	人	人	人	人	
			10 (10)	4 (3)	4 (3)	1 (1)	19 (17)	0 (0)	17 (8)
		計	10 (10)	4 (3)	4 (3)	1 (1)	19 (17)	0 (0)	— (—)
	既設	比較文化研究科 比較文化専攻 博士前期課程	11 (11)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	4 (4)
	比較文化研究科 比較文化専攻 博士後期課程	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	2 (2)	
	計	11 (11)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	— (—)	
	合計	21 (21)	8 (7)	5 (4)	1 (1)	35 (33)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計		大学全体				
	事 務 職 員		88人 (91)	12人 (12)	100人 (103)						
	技 術 職 員		10 (9)	5 (5)	15 (14)						
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	4 (3)	5 (4)						
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)						
	計		99 (101)	21 (20)	120 (121)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大手前短期大学 (必要面積5,400㎡と共用)				
	校 舎 敷 地	10,246.76㎡	26,124.08㎡	0㎡	36,370.84㎡						
	運 動 場 用 地	0㎡	20,609.47㎡	0㎡	20,609.47㎡						
	小 計	10,246.76㎡	46,733.55㎡	0㎡	56,980.31㎡						
	そ の 他	416.56㎡	3,279.62㎡	0㎡	3,696.18㎡						
合 計	10,663.32㎡	50,013.17㎡	0㎡	60,676.49㎡							
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		大手前短期大学 (必要面積5,100㎡と共用)				
		25,451.18㎡ (25,451.18㎡)	14,232.83㎡ (13,045.83㎡)	2,832.59㎡ (2,832.59㎡)	42,516.60㎡ (41,329.60㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体				
	66室	28室	50室	7室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		共同研究室5室を含む					
		国際看護学研究科 看護学専攻		20 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学・短大全体での 共用分 図書359,922冊 [58,089冊] 学術雑誌12,695種 [9,286種] 電子ジャーナル 10,606種[9,045種]			
	国際看護学研究科 看護学専攻	855 [247] (855 [247])	29 [0] (29 [0])	21 [0] (21 [0])	40 (40)	123 (123)	0 (0)				
	計	855 [247] (855 [247])	29 [0] (29 [0])	21 [0] (21 [0])	40 (40)	123 (123)	0 (0)				
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		3,620.52㎡		348	220,566						
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		1,290.79㎡		陸上トラック・テニスコート・弓道場・ゴルフ練習場・ジム							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	看護実践科学分野 公衆衛生看護実践科学分野 助産実践科学分野	
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円		
		共同研究費等		1,600千円	1,600千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円		
		図書購入費	10,551千円	0千円	0千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円		
	設備購入費	20,061千円	0千円	0千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		950千円	750千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円				
		1,100千円	900千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入等								

大学等の名称	大手前大学								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
既設大学等の状況	国際日本学部 国際日本学科	4	190	2年次 4 3年次 2	776	学士（学術）	1.08	平成19年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号	令和4年4月名称変更【旧名称】総合文化学部総合文化学科
	建築&芸術学部 建築&芸術学科	4	180	2年次 4 3年次 2	736	学士（学術）	1.12	平成19年度	同上	
	現代社会学部 現代社会学科	4	220	2年次 4 3年次 2	896	学士（学術）	1.14	平成19年度	同上	
	健康栄養学部 管理栄養学科	4	80	3年次 16	352	学士（栄養学）	0.96	平成28年度	大阪府大阪市中央区大手前2丁目1番88号	
	国際看護学部 看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	1.05	平成31年度	同上	
	現代社会学部 現代社会学科（通信教育課程）	4	500	3年次 500	3,000	学士（学術）	0.24	平成22年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号	
大手前大学大学院										
大学等の名称	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	比較文化研究科 比較文化専攻（博士前期課程）	2	10	—	20	修士（学術）又は（文学）	0.45	平成8年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号	
	比較文化研究科 比較文化専攻（博士後期課程）	3	3	—	9	博士（学術）又は（文学）	0.33	平成10年度	同上	
大手前短期大学										
大学等の名称	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	ライフデザイン総合学科	2	150	—	300	短期大学士（ライフデザイン）	1.06	平成16年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号	※令和4年度入学定員増（10人）
	歯科衛生学科	3	80	—	220	短期大学士（歯科衛生学）	1.09	令和2年度	同上	
附属施設の概要	名称：大手前大学国際看護研究所 目的：本学の使命に掲げる「本学の使命は、教育と研究を通じて地域と連携し地域発展に尽くすと共に国際社会に貢献すること」を具現化すること 所在地：大阪府大阪市中央区大手前2丁目1番88号 設置年月：平成31年3月 規模等：17.53㎡									

究特 科別 目研	看護研究演習	1通	2			○		10	3	1				
	看護特別研究	2通	4			○		10	3	1				
	小計(2科目)	—	6	0	0	—		10	3	1	0	0	0	—
合計(51科目)		—	14	98	0	—		10	4	4	1	0	兼17	—
学位又は称号		修士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>【修了要件】</p> <p>○看護実践科学分野 本研究科に2年以上在籍し、所定の授業科目について、必修科目14単位を含む30単位以上(共通科目16単位、看護実践科学科目6単位以上と看護実践科学科目及び公衆衛生看護実践科学科目ならびに助産実践科学科目の選択可能科目から2単位以上、特別研究科目6単位)を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>○公衆衛生看護実践科学分野 本研究科に2年以上在籍し、所定の授業科目について、必修科目14単位を含む61単位以上(共通科目16単位、看護実践科学科目及び助産実践科学科目の選択可能科目から4単位以上、公衆衛生看護実践科学科目35単位、特別研究科目6単位)を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、保健師助産師看護師養成所指定規則第2条第3号に規定される必要科目31単位が含まれている。</p> <p>○助産実践科学分野 本研究科に2年以上在籍し、所定の授業科目について、必修科目14単位を含む61単位以上(共通科目16単位、看護実践科学科目及び公衆衛生看護実践科学科目の選択可能科目から4単位以上、助産実践科学科目35単位、特別研究科目6単位)を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、保健師助産師看護師養成所指定規則第3条第3号に規定される必要科目31単位が含まれている。</p> <p>【履修方法】</p> <p>○看護実践科学分野 「共通科目」は16単位以上(必修8単位、選択8単位以上) 「専門科目」は「看護実践科学科目」の3領域から1領域を選択し3科目6単位とその他の1科目2単位以上(選択必修8単位以上) 「特別研究科目」(必修6単位)</p> <p>○公衆衛生看護実践科学分野 「共通科目」は16単位以上(必修8単位、選択8単位以上) 「専門科目」は「公衆衛生看護実践科学科目」の35単位、その他の2科目4単位を選択必修(選択必修39単位以上) 「特別研究科目」(必修6単位)</p> <p>○助産実践科学分野 「共通科目」は16単位以上(必修8単位、選択8単位以上) 「専門科目」は「助産実践科学科目」の35単位、その他の2科目4単位を選択必修(選択必修39単位以上) 「特別研究科目」(必修6単位)</p> <p>※は各国家試験受験者コースに限る</p>								1学年の学期区分		2期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(国際看護学研究科 看護学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 研究基盤科目	国際看護学特論	<p>本科目では、グローバリゼーションがもたらした健康への影響と日本社会のグローバル化を概観し、医療や看護の場面でみられる諸課題についてデータを基に教授する。また、多様な人々が暮らすグローバル社会における健康と福祉やQOLの実態と健康課題についても、事例を通して問題を明らかにする。講義中のディスカッションを通して健康支援への考察を深め、学生自身の研究課題を明らかにする。さらに、JICA等の国際保健活動での看護職の支援活動の実際を通して、国際看護活動を実践するうえで必要な知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (△ 嶋澤恭子/2回) グローバル社会での多様な人々の健康課題と健康支援の実態を教授する。 (③ 鈴井江三子/10回) 国際看護学や国際保健活動の現状を概説し、将来の国際看護学領域の研究計画の明確化を行う。 (14 エレーラ・ルルデス/3回) 国際保健支援活動の具体例を用いて、教育と研究の重要性を教授すると同時に、課題解決のための適切な研究方法について教授する。</p>	オムニバス方式
	看護学研究方法特論	<p>本科目では、国際看護学研究の意味と必要性を理解させ、国際看護学研究の方法を教授する。実験研究や介入研究等の量的研究と、事例や資料分析等の質的研究に関する知識について教授し、量的・質的な研究手法がもつ長所と弱点について理解させるために、各研究方法に精通した看護学研究者から成るオムニバス形式で講義を構成する。また、グローバル社会での看護学研究を実践する上で必要な研究倫理について教授し、看護学研究者に求められる高い倫理的態度を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (△ 嶋澤恭子/1回) 国際看護学研究と質的研究の代表的な領域である文化人類学のかかわりについて説明し、質的研究と量的研究の融合について教授する。 (6 白井文恵/2回) 国際看護学研究の基礎研究としての実験研究と、臨床研究としての症例対象研究や介入研究について教授する。 (11 藤井ひろみ/9回) 国際看護学研究の必要性を歴史や看護理論から説明し、研究の重要性を教授する。また、倫理的配慮について具体的な倫理審査過程を用いて教授する。 (34 釜野さおり/3回) 量的研究としての横断研究と縦断研究の方法論を具体的な大規模データに基づいて教授する。</p>	オムニバス方式
	国際看護研究特論	<p>本科目では、英語を標準言語として授業や討議を行う。まず、国際的な学術論文や看護実践を紹介し、自身の研究や看護実践に役立つデータベースや学術論文を英語で検索する能力を修得させる。次に、学術論文に取り上げられた問題点を討議することを通して、看護研究における文化や多様性の問題を理解させる。特に、プレゼンテーションや討議を通して国際共同研究についての理解を深め、国際的な保健活動の場において使用されることが多くなった医療通訳機器やヘルスケア機器の基本的な知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (10 西村直子/6回) 国際看護研究の検索や評価に用いるデータベースやツールの使用法を教授する。これらの機器を用いて評価した論文を使用して、システマティックレビュー作成の基本を教授する。 (14 エレーラ・ルルデス/9回) 国際看護研究の動向について概説し、国際看護研究の意義と計画方法について具体例を用いて教授する。また、医療通訳機器やヘルスケア機器の基本的な知識を教授する。</p>	オムニバス方式

	保健データ解析特講	<p>本科目では、国内外の母子統計やがん統計を中心とした保健データを用いて、データを正確に把握し、それぞれの分野での課題を明確にする能力を涵養する。また、これらの情報を他者に正確に伝えるためのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力と、研究と臨床の橋渡しの役割ができる能力を相互の議論を通して涵養する。さらに研究能力の向上を目指して、ビッグデータを用いた研究でのデータの取り扱い方法について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 大橋一友/10回) 母子統計データを用いて、データの入手法、研究デザイン別のデータの質の評価、データから見える健康課題について教授する。さらに、WHOなどの保健データを用いて、世界の健康課題の問題点を議論する。 (33 大野ゆう子/5回) がん統計データを用いて、データ収集の問題点や解析結果の活用について教授する。さらに、国家規模で行われているビッグデータを用いた研究例を紹介する。</p>	オムニバス方式・集中
研究 関 連 科 目	ジェンダー学特論	<p>本科目では、世界におけるジェンダー不均衡の現状を分析する視点から、ジェンダー学を用いた健康、教育、政治、経済分野に加え、性と文化に関する国内外の課題の事前資料を読解し、関連文献をもとに自ら討議のポイントをまとめた資料を作成し、発表と討議を通じて理解を深める。また、看護とジェンダーの関連について、健康やケアにおけるジェンダー格差とその解決に向けた看護職の役割について教授する。</p>	
	公衆衛生学特論	<p>本科目では、多様な人々への健康増進活動の世界的潮流について把握した上で、日本が直面している健康問題について考え、人々の健康を阻害または増進する要因と、地域性、対象者の特性、文化や習慣、社会経済的背景などの社会的要因との関係性を科学的に分析し、理解するための授業を行う。また、公衆衛生の基本的役割を認識し、問題解決を行うための基礎となる疫学の研究手法について教授し、健康改善のための実行可能な対策を考える能力を涵養する。</p>	
	健康栄養学特論	<p>本科目では、食品とそれに含まれる各種栄養成分が健康や疾病に及ぼす影響とその理論的背景について教授し、子どもから高齢者に至る各ライフステージにおける栄養上の問題点とその解決策について教授する。また、栄養管理が必要な対象者に対して、栄養学的根拠に基づいた論理的な栄養ケア・マネジメントが構築できる能力を涵養する。加えて、宗教上の食事の禁忌についても学びを深め、多様な人々が共生するグローバル社会において必要とされる食事に関する知識も教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (23 乾博/7回) 健康維持に重要な食品に含まれる栄養成分の機能を栄養成分ごとに解説し、多様な対象者の健康課題である生活習慣病やアレルギーとの関連を教授する。 (27 白石齊聖/8回) 食品の特性や種類、栄養成分を概説し、食の多様性と食が健康に与える影響に関する知識を教授する。</p>	オムニバス方式
	医療人類学特論	<p>本科目では、地球に暮らす様々な人々の生活様式、宗教、価値観、環境、社会システムや医療・看護を概観しながら、健康と病気に関する文化的、社会的現象を研究対象とする医療人類学 (medical anthropology) についての理解を深める。また、健康と病気に関する人間のさまざまな諸実践 (広義の「医療」) を研究対象として、フィールド調査の方法や、得られたデータの分析手法を教授し、その土地に暮らす人々の価値観を捉える視点を涵養する。そして、看護職が持つ人びとの健康と病気に関する信条や実践は文化的に修飾されたものであり、健康や病気の捉え方の実態は多様に変化するため、何が人々にとって健康の状態 (well-being) なのか、その洞察を深める機会とする。</p>	

		デジタルヘルスケア特講	<p>本科目では、様々な分野において活用される最新のデジタル技術の基本、ならびに現状と課題、特に看護医療分野におけるデジタルヘルスケアの現状とその技術の活用法について教授する。また、デジタル技術によって解決しうる臨地現場や教育現場におけるグローバルヘルスケアの課題を明らかにし、それらをプランニングするプロセスを教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 大橋一友/5回) 健康支援へのデジタル技術の応用について、尿失禁治療・予防アプリの開発と禁煙指導アプリの使用例を用いて教授する。さらに途上国支援でのデジタル技術の重要性を教授する。 (⑦ 畑耕治郎/10回) デジタル技術、ICT、IoTの基礎を概説し、ICTの教育や医療への応用について教授する。さらにVR(仮想現実)、AR(拡張現実)、XR(複合現実)の基礎を教授する。</p>	オムニバス方式・集中
専門科目 看護実践科学 基盤専門看護学		看護管理特論	<p>本科目では、様々なレベルでの看護管理について概説し、具体的な看護管理の事例を用いて討議を行い、看護管理の実際と課題について教授する。また、医療安全と良質な看護サービスの提供に向けた管理方法についての理解を深め、実際の管理経験に基づいた留意点についても教授する。さらに、JICAでの国際看護活動の事例を用いて、国際的な人材育成や看護管理について教授する。加えて、法人の特徴と理事会運営の理解も深め、将来、各組織や職能団体の管理職として活躍する人材育成への動機付けとなる講義展開とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (△嶋澤恭子/3回) 国際看護活動での看護教育や看護管理の支援について、JICA活動の事例を用いて日本の現状と対比しながら討議し、適切な国際看護活動を展開できる能力を涵養する。 (△高橋弘枝/12回) 看護管理の定義と組織別の特徴や看護行政について概説し、主に日本での医療機関内での人材育成や医療安全確保について管理者としての長年の経験を基盤に教授する。また、職能団体の管理運営について概説する。</p>	オムニバス方式
		慢性・老年看護特論	<p>本科目では、グローバル社会での慢性性や老化過程が健康生活にもたらす影響に関する理論や概念について教授し、慢性病者や高齢者を取り巻く環境との相互作用によって生じる諸問題や、慢性病者や高齢者へのケア活動の課題について教授する。また、自身の生を全うするためのエンド・オブ・ライフケアについて教授する。さらに、諸外国での高齢化問題や定住外国人の健康問題などに対する多様な保健医療福祉ニーズを国際的な視点でとらえ、個人・集団・社会システムへのアプローチ方法を教授する。加えて、国内外の幅広い研究動向を把握し、アジア諸国の高齢化をも見据えた高齢者ケアにおける課題及びその解決に向けた研究方法について教授する。</p>	
		看護技術特論	<p>本科目では、日本と諸外国における看護技術の基本的概念や理論を理解し、様々な看護技術開発のための方法論を学ぶとともに、看護技術提供に潜む倫理的問題と配慮について教授する。看護基礎教育における技術教育の課題について現状を分析し、看護学生の看護技術能力の向上のための教材開発とその有効性と課題について検討する。さらに、看護技術や看護活動を支援する工学的機器や用具の開発と効果の検証や、療養環境としてののにおいの測定や評価、改善に関する方法論を教授する。</p>	

生涯発達看護学	小児・思春期健康支援特論	<p>本科目では、人を生涯発達する存在としてとらえ、その中の小児期・思春期にある人の自律性を尊重し支援するために必要な基礎知識を教授する。学生の経験や研究テーマを、最新・最善のエビデンスを用いて吟味し、多様化・複雑化する社会で生きる子どもとその家族への最善のケアを意思決定できる思考プロセスを涵養する。小児期・思春期からのセルフケアが、生涯の健康維持や人格形成にとりどのような意味を持つのか考察し、個人・集団へのアプローチ（集団教育）を実施するための教育技法、教材開発、その評価や改善のための研究方法を教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （10 西村直子／12回）</p> <p>発達についての理論をもとに、胎児期から青年期の身体的、精神的、社会的特徴を概説し、学生間でディベートを行う。また、ストレスや健康障がいを持つ子どもや災害時の子どもの健康管理について、グローバルな視点から教授する。 （20 高谷知史／3回）</p> <p>家族看護の定義と諸理論を概説し、事例を用いて家族アセスメントや家族支援について教授する。</p>	オムニバス方式
	プレコンセプションケア特論	<p>本科目では、次世代の健康向上のためのケアについて探求する。学童期からAYA世代を対象に、従来の性教育ではない新しいプレコンセプション教育を教授する。プレコンセプション教育の結果として、生殖年齢のすべての人が自分のリプロダクティブライフプランを計画できる方策を討議する。また、妊娠後に行われている妊婦教育や両親教育にとどまらず、出生前胎児診断などの先端医療を用いる際のケア・教育についても教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （9 富松拓治／10回）</p> <p>日本の周産期医療や生殖医療の問題点を国際比較の中で概説する。月経関連症状、避妊、妊娠年齢の上昇に伴う不妊や合併症について教授し、思春期からAYA世代に行うプレコンセプション教育の観点から討議する。 （18 足立朋子／5回）</p> <p>プレコンセプション教育の現状を海外での実践との比較で概説する。教授された基礎知識を基に、今後の日本でのプレコンセプション教育の目標や方策を討議する。</p>	オムニバス方式
	セクシュアリティ看護特論	<p>本科目では、患者・対象者のライフステージや疾病・障がいの有無、多様な性的指向、性自認、性的特徴など、多岐にわたるセクシュアリティ看護が対象とする事象を捉え、性機能障害へのカウンセリングや性教育の実践について教授する。また、性暴力や望まない妊娠と中絶など、性に関する健康被害やスティグマを経験する対象者への看護の実践について、実践事例を通じて教授する。さらに、HIV/AIDSに関するグローバルなアドボケイト活動が各国のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスをどのように改善したか、その経緯と評価法について教授する。検討する際には、対象とする事象をジェンダー学、女性学、性科学、看護学、助産学など、学際的な研究動向の中に位置付ける。患者・対象者のセクシュアリティが、単に個人にとどまらず患者・対象者の持つ人間関係や所属する社会・文化に影響されていることを理解したうえで、全人的ケアとしてのセクシュアリティ看護の展開について議論する。</p>	
国際地域看護学	地域在宅看護特論	<p>本科目では、実践リーダー・管理者・教育者の育成のための国内外の在宅ケアの効果的な提供方法を中心に、それに関連する制度、在宅ケア体制、ケアマネジメントの実践について、実践力の強化ができるように具体的な内容で展開する。また、退院支援・調整により在宅移行を可能にするための包括的支援のあり方、多様な人々へのエンド・オブ・ライフ、ACPなどの実践力強化を図るとともに、地域包括ケアシステムにおける多職種連携、在宅看護の実践内容の評価とその方法、さらに地域・在宅看護にあたる人材育成の貢献のためのエビデンスを教授する。</p>	
	精神保健特論	<p>本科目では、日本および諸外国にみられるメンタルヘルスの向上のための理論的枠組みに基づいた実践の探究方法を教授する。また、各学生の臨床経験や研究テーマを先行文献の比較によって吟味し、各自の「気づき」を手掛かりとしながら、グローバルヘルスの改善にとって人々のメンタルヘルスがどのような意味を持つのか、考察を促す。既存のメンタルヘルスケアの実践を評価したり改善したりするための研究方法を教授し、学生が独自に探求しようとする現象に応じて、さらなるエビデンスを探求するために相応しい研究方法を確定することも支援する。さらに、各精神疾患ならびに精神障害の特徴および予防法・対策とケアについても、学際的視点から教授する。</p>	

		国際保健活動特論	<p>本科目では、国際保健活動の世界的中心である国連の開発目標（MDGs、SDGs）と国際的な健康課題、健康格差、貧困について教授し、看護職としての国際保健活動を考える。次に具体的な実践事例を通じて、JICA等で行われている国際保健活動（海外医療支援、看護人材養成のための本邦研修など）の問題点を教授する。これらの学修成果を基盤としたグループ討議を通じて新しい国際保健活動を提案し、学生間でクリティークすることによって、計画を向上させる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （① 大橋一友／10回）</p> <p>MDGsからSDGsに至る歴史と内容の変遷をWHOの報告書を基に概説する。JICA事業の本邦研修と海外展開事業を用いて、日本が行う国際保健支援事業の改善点を討議し、新しい国際保健活動の提案をまとめる。</p> <p>（△ 嶋澤恭子／5回）</p> <p>グローバルヘルスの観点から多様な健康問題について概説し、看護師としての国際保健活動について国際機関や政府、NGOsの立場から考える。</p>	オムニバス方式
公衆衛生看護実践科学	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学特論	<p>本科目では、公衆衛生看護の概念、対象、活動方法の特性について理論や概念、保健師としての使命を理解させ、専門職種として必要な知識や態度を涵養する。授業では、阪神地区におけるグローバル社会の多様性を理解させうえて、低所得労働者層の集住地域における個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ及び地域住民の健康増進・疾病予防を目指すアプローチや、公衆衛生看護活動及び基盤となる概念、活用理論について教授する。</p>	
		公衆衛生看護実践特論	<p>本科目では、地域で生活する多様な人々への健康支援について、人々のライフサイクルや疾病の特性に対応した公衆衛生看護を実践できる能力を涵養する。授業では、地域ケアシステムでの保健活動において、ライフステージ別、健康課題別、社会的背景、定住外国人における健康課題の特性を踏まえ、それらに対応した実践について教授する。</p>	
		公衆衛生看護実践演習	<p>本科目では、グローバル社会に暮らす地域住民のそれぞれの対象に対する看護展開の実践プロセスを教授する。授業では、公衆衛生看護過程の展開に向けて健康課題への支援技術である保健指導、家庭訪問、健康相談、健康教育、グループ支援・組織化の特徴、展開方法について演習を通して教授し、その必要性・専門性を理解したうえで支援技術を展開する能力を涵養する。</p>	共同
		人口学特講	<p>本科目では、学生は日本における保健活動の基礎となる、少子・高齢化、人口減少などの現代日本の人口問題に加え、歴史的な人口の変遷や世界における人口問題を理解するため、人口学の主要項目、及び、将来人口推計の方法とその政策的応用について学び、実際の人口統計を用いた分析・演習を行う。このような人口統計を用いた定量的分析演習を行うことにより、政策効果測定に対する基本的な考え方、またそれらから導き出される政策的意味についての理解を深め、健康寿命延伸に向けた保健活動など、分析に基づく実践的応用についても議論する。また、国際的な人口学的データの活用に基づいて、諸外国と日本との国際比較に関する研究方法についても教授する。</p>	集中
		保健統計論	<p>本科目では、疾病予防や健康増進を図るために実施される様々な保健医療統計から、地域・国際保健活動に必要な統計学の主要概念、基礎理論、統計解析に関する知識および技術を教授する。また、各種データの処理方法や分析方法を学ぶことにより、公衆衛生看護活動において保健医療情報の効果的な活用能力を涵養する。</p>	
		疫学特講	<p>本科目では、学生は国内外の地域保健活動において必要となる疫学・保健統計の基本的な知識を修得するだけでなく、その知識を活用し、地域の課題発見・課題解決を主体的に実施するための技術を修得する。地域の課題解決を行うためにどのような調査研究を行うべきか、また政策に落とし込むための戦略について検討できるような力を修得させるために、レポート課題について学生との討議を行う。</p>	集中

ハイリスク事例支援論	本科目では、困難な健康課題を有する地域住民を支援する能力を涵養する。授業では、事例検討やロールプレイを通して、各年代において制度の網目から抜け落ちる人や支援を拒む人、複雑困難な健康課題を有する人、定住外国人で健康課題を有する人の事例を検討し、学生同士で家庭訪問や保健指導のロールプレイを行うことにより、そのような人たちに対してどのような支援が可能かについて思考する能力を涵養する。	
コミュニティネットワーキング論	本科目では、グローバル社会の地域課題に関連する様々な情報を包括的に収集し、地域診断を実践できる能力を涵養する。授業では、地区踏査を踏まえて、疫学データや保健統計から地域をアセスメントし、地域の健康課題について明らかにし、理論やPDCAサイクルをふまえて一連の地域診断の過程を展開するプロセスを教授する。	
地域ケアシステム論	本科目では、多様性を内包した地域ケアシステムについて理解し、その構築に向けて必要なプロセスを教授する。授業では、自治体の議会や審議会等を傍聴し、政策形成の実態を学ぶなど、社会の構造、機能、施策化の基盤などについて実際の現場を体験することによって理解を深める。	
学校保健論	本科目では、国内外における学校保健の変遷や我が国における学校保健に関連する法規、および学校保健推進に関わる職務内容やその特質について教授する。また、学校安全やいじめ、児童虐待、不登校、心の問題等の現代の健康課題、異文化社会の中で生活する子どもの健康課題に関する知識を教授する。さらに、学校保健の実態を、実践家からの講話を通じて、今日のかつ実践的に理解させる。	
産業保健論	本科目では、産業保健における特性に応じた保健活動の実態や健康問題について教授する。授業では、産業保健の法的基盤や組織の特性を学び、日本人労働者や外国人労働者とその家族の健康増進のための保健活動の実態について、事例紹介や事例検討から理解を深める。 (オムニバス方式／全8回) (6 白井文恵／1回) 産業保健と産業看護の理念と歴史を概説する。 (36 中村千賀／5回) 日本の事業場での産業保健活動について教授し、日本人労働者の健康問題（作業起因性健康問題、過重労働課題、生活習慣病、メンタルヘルス）と健康支援について討議する。 (6 白井文恵・36 中村千賀／2回)（共同） 外国人労働者の健康問題やメンタルヘルスについて教授し、健康支援について討議する。	オムニバス方式・共同（一部）
健康危機管理論	本科目では、学生は多様性を有する地域住民の健康を保持増進するための公衆衛生看護管理の目的・機能について学び、さらに、災害保健活動や感染症保健活動のような健康危機管理に必要な知識を学修する。本授業では、地域における健康危機管理に関する情報収集や、健康危機管理を担当している市町村職員の語りを聴講したりすることで、公衆衛生看護における健康危機管理に必要な知識を教授する。 (オムニバス方式／全15回) (6 白井文恵／8回) 行政における感染症保健活動、災害保健活動、子どもの虐待予防について教授する。 (21 山本真理子／7回) 行政における保健師の役割と公衆看護管理について概説し、公衆衛生管理の実態、組織運営、リスクマネジメント、人事管理、予算編成、情報管理、サービスの量と質の評価を教授する。	オムニバス方式
グローバルコミュニティマネジメント論	本科目では、公衆衛生看護活動を展開するために、チームの一員としての役割を果たすとともに、組織、国内外における地域ケアシステムをマネジメントする基礎的知識と技術を修得させる。本授業では、地域における関係部署、関係機関、住民組織等の機能と役割について教授し、個、集団、組織、地域それぞれのマネジメントについて教授する。	

	保健医療福祉行政論	<p>本科目では、国民の健康やQOLを守る保健医療福祉行政の理念と仕組み、法律、社会制度などを通して日本の保健医療福祉行政の実際について教授する。保健医療福祉行政の実際をふまえた政策形成過程についての事例を用い、保健医療福祉に関する法・制度と多様性を有する対象者への保健活動との関連性についてのディスカッションを通して、保健政策について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑥ 矢野朋子/11回)</p> <p>保健医療福祉行政の理念と仕組みや制度について教授する。また、保健医療福祉行政施策の計画策定、実行、評価のサイクルについて教授し、保健師の役割について討議する。</p> <p>(38 山口典子/4回)</p> <p>社会情勢の変化と保健医療福祉行政の実際を教授し、地方自治体における男女共同参画に関する実践事例について討議する。</p>	オムニバス方式
	公衆衛生看護学レビュー	<p>本科目では、日本と諸外国における環境衛生、感染症対策、衛生教育、保健医療制度の組織化および社会保障制度の改善など公衆衛生学が射程とする課題の研究論文を精読する。また、課題設定の時代的背景から見た適切性や、対象者への倫理的配慮のみならず地域住民に与える影響を念頭にその研究手法を評価し、結果が公衆衛生に与える個人の健康や地域、組織への波及効果について考察するなどの、思考態度を開発するための能力を涵養する。</p>	
	保健政策研究	<p>本科目では、保健医療福祉行政の変革の歴史を踏まえ、日本及び諸外国の保健医療福祉行政の改善過程において、保健政策の立案が果たす役割について教授する。保健医療福祉行政がとらえる現象に関する世論形成過程、政策立案の根拠となった調査など、政策形成に関わる行政と立法府、非政府組織や市民活動の役割の違いと協働について、保健師の視点から行う政策研究の意義を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 白井文恵/1回)</p> <p>保健政策と保健師とのかかわりについて概説し、議論する。 (32 鶴川晃/13回)</p> <p>医療制度と公衆衛生政策について概説し、保健医療福祉政策への住民参加について教授する。さらに、保健医療分野の国際世論と政策や政策の根拠となる研究について紹介する。 (6 白井文恵・32 鶴川晃/1回) (共同)</p> <p>14回の授業を踏まえて、保健政策と保健師の役割について議論する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	公衆衛生看護実習	<p>本科目では、公衆衛生活動に必要な知識・技術・態度を統合し、すべての年代の様々な健康レベルにある人々や、保健サービス提供の場(地域)に対し、各々の健康ニーズに対応できる力を涵養する。また、年々増加している定住外国人に対し、言語による情報格差や母国と異なる生活習慣や文化によって起こっている地域での健康課題に対応できる能力を養う。市町村の保健医療計画に基づき保健サービスを提供する保健師の役割や、関係機関との連携の実際を学び、マネジメントを実践できる能力を養う。さらに、これらの能力を活用し、健康課題の解決に向けて地域特性をふまえた保健活動の計画・実施・評価能力を修得する。</p>	共同
	グローバルコミュニティ実習	<p>本科目では、日本国内における訪日外国人や定住外国人に対する相談活動を通して、保健・医療・福祉の連携の実際を教授する。また、他国籍の地域住民等の健康支援のための関係機関の協働活動を理解し、健康支援を展開できる基本的能力を涵養する。さらに、検疫所の活動を通して国境を越えた人々の移動に伴う健康課題とその対応に関する公衆衛生看護の役割を捉え、グローバルな視点で国内の地域住民や定住外国人への健康支援、関係機関との協働活動の展開について教授する。</p>	共同
助産実践科学	助産学特論	<p>本科目では、助産師としてのアイデンティティの核となる、助産学の概念、倫理、母子保健と助産の変遷、動向、諸制度や関連法規を踏まえ、現在の助産師に求められる役割と業務範囲、コア・コンペテンシー(必須能力)を教授する。また、助産の対象者及び現象を学際的かつ多角的に捉えるために、看護学や産科学をはじめとする諸科学と関連した助産研究と、国内外の母子保健統計の知識を教授する。さらに、学生がグローバルヘルスケアにおける助産の重要性とGlobal issueに応じた助産師の役割についてや、助産の対象となる女性、子ども、パートナー、家族にとってより望ましい助産師の在り方と助産ケアについてを考察し、自身の目指すべき助産師像および今後の方向性を探求する。</p>	

地域助産実習	<p>本科目では、助産所の開設者・管理職である指導助産師のケアの見学やケアの一部を指導のもとに実施する実習を通じ、地域における助産師の役割を教授する。また、助産の対象者である多様性のある妊婦、産婦、褥婦とその家族の地域での生活を理解させる。さらに、助産所や地域での医療介入を要しない出産の立会いを行わせ、助産の対象であり目標である「安産」の概念と、対象に密着し継続して実践される助産師の業を併せて深く理解するための基本的姿勢を涵養する。その上で、助産師として自律するあり方を目指すためのモデルを自らのうちに内発的に構築する。</p>	共同
周産期学特論	<p>本科目では、助産学の基盤となる産婦人科学のうち、周産期の助産実践に必要な妊産婦と胎児とその付属物および、褥婦と新生児の解剖と生理について教授する。また、妊娠、分娩、産褥と新生児の胎外適応などの各現象の正常機序とともに正常逸脱についても教授する。さらに、周産期の偶発合併症や異常妊娠・異常分娩・異常産褥の病態理解を通じて、その早期発見と予防法への理解を促し、各異常への介入や治療、帝王切開術をはじめとした手術手技に関する知識を教授する。</p>	
国際助産演習	<p>本科目では、途上国において各地域の保健医療機関の協力を得て、外国での助産師等の助産実践の見学と、同意を得た外国人妊産婦に対する健康教育の一部を実施する。また、施設および産婦の同意が得られた事例の家庭訪問を実施する。これらの演習によって、外国のコミュニティおよび家庭における出産や育児習俗についての学修を促進する。本科目の学修内容について英語もしくは現地語によるカンファレンスを現地指導者と持ち、その成果を踏まえて英語によるレポートを作成して議論を深める。グローバルな視点からリプロダクティブヘルスをとらえるために、母子保健に関連する行政、教育、臨床の3つの点から、外国と日本の状況を比較する視点を涵養する。</p>	共同
周産期健康危機管理ケア論	<p>本科目では、日本人や定住外国人を対象に、緊急対応が必要な複雑な対象者への助産診断方法および助産技術を教授する。まず、周産期各期の管理でみられる緊急対応が必要な徴候とその対応について情報収集し、その内容をもとに議論しながら対応策を探求する。次に、ハイリスクな状態への対応に備えられる実践家として、被害者の行動特徴や話を聞く際の態度や留意点、及び禁忌事項についても知識を深め、Women centered careが行える態度・知識・技術を総合的に修得させる講義内容とする。特に、多職種との連携が必要不可欠な児童虐待や性暴力被害者支援については、性的暴力の実態とその影響、及び被害者対応の理論から応用までを教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3) 鈴井江三子/13回)</p> <p>周産期のハイリスク事例(産科危機的出血など)への対応について教授する。さらに、女性に対する性的暴力の被害者対応への実際的な支援力を育成するために、国内外での性暴力、DV、児童虐待を取り上げ、女子受刑者の実態について教授する。</p> <p>(35 久呉真章/2回)</p> <p>蘇生を要する新生児の事例にみられる異常徴候の早期発見とハイリスク要因の緊急対応について教授する。</p>	オムニバス方式
助産診断技術学 I (分娩介助)	<p>本科目では、多様性を有する人を対象に、分娩期の生理学的変化と正常経過に基づく助産診断と助産過程の展開、助産技術を教授する。正常性を維持する助産ケアを探求するとともに、正常からの逸脱時に早期にアセスメントし、異常を適切に判断できるよう、教科書だけでなく、最新のガイドラインに基づいて対応を教授する。教員主導の授業に加えて、自己学習と学生間での学び合いを通して理解を深める。学生が基本的な知識と技術を修得し、さらに実践力を養うために、状況設定下での演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (1) 大橋一友/1回)</p> <p>胎児心拍数陣痛図の判読について教授する。 (△) 嶋澤恭子/1回)</p> <p>ポジティブな出産経験のための分娩期ケアについて教授する。 (16 望月明見/2回)</p> <p>アクティブバース/フリースタイル分娩について教授する。 (18 足立朋子/23回)</p> <p>分娩の基礎、分娩各期の助産ケア、分娩介助法について教授する。分娩介助技術演習では他の2名の助産師である教員とともに、学生の分娩介助技術の評価と向上を行う。 (△) 嶋澤恭子・16 望月明見・18 足立朋子/3回) (共同)</p> <p>共同して分娩介助技術演習を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

助産診断技術学Ⅱ（継続ケア）	<p>本科目では、多様性を有する人を対象にした助産診断の方法および助産技術を教授する。また、助産の対象となる諸現象が、妊娠期から育児期まで十数年にわたる継続的過程を経ることから、各時期にある対象に一貫したWomen centered careを提供する継続ケア実践力を持った助産師として、助産の対象に対する態度・知識・技術を総合的に修得させる。特に、妊娠期から育児期までの女性の健康を支援する継続ケアおよび、それらを通じたその人らしい家族形成への支援を実践できることを目標に、エモーショナルケアを含めたカウンセリング技術、家族発達の知識など、全人的ケアに必要な多様な知識・技術を教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全30回） （△嶋澤恭子／15回）</p> <p>継続ケアの有用性とWomen centered careの概念と助産実践を概説する。また、妊娠期の生理的変化、周産期のメンタルヘルス、母乳育児支援、カウンセリング技術について演習を通して教授する。さらに、在留外国人母子の支援について医療通訳や外国人SPを用いて演習する。 （16 望月明見／3回） 産褥期の生理的変化について教授する。 （18 足立朋子／6回） 妊娠期の助産診断の方法について妊娠初期、中期、後期の実際（妊婦健康診査場面）を通して教授する。 （31 井上千秋／6回） 産後の家庭訪問演習を通して地域における助産活動（継続ケア）について教授し、受胎調節と家族計画の実際についても理解を深める。</p>	オムニバス方式
助産診断技術学Ⅲ（健康診査と健康教育技法）	<p>本科目では、多様性を有する人への助産診断の方法および助産技術を教授する。助産の対象である妊産婦や褥婦の健康状態を査定するためのフィジカルアセスメントの技術、種々のケア実践方法について、主に健康診査や健康教育の場面における助産を実践するための態度・知識・技術を総合的に教授する。また、対象が持つ文化に配慮した育児支援について教授する。妊娠期から育児期までの女性の健康支援を目標に、全人的ケアに必要な多様な知識・技術を、事例演習を通じて実践的に教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全45回） （△嶋澤恭子／15回）</p> <p>妊娠期のフィジカルイグザミネーションについて、妊娠各期での場面設定をした模擬演習（妊娠診断時、超音波検査時、分娩予定日超過時など）を行う。さらに、地域の保健医療機関における妊婦健康診査や産後の健康診査に参加して、事例演習を行う。 （16 望月明見／6回） 産褥期のフィジカルイグザミネーションについて模擬演習（産褥1日目、産褥3日目、退院の可否、1か月健康診査、乳房トラブル、パースレビュー）をおこなう。 （18 足立朋子／20回） 助産師として相談活動・健康教育のスキル及びコミュニケーション能力について教授し、出産準備教室を計画、実施、評価する演習をおこなう。事例演習にも加わる。 （28 本多美預子／2回） 地域の保健医療機関で多職種が協働して実施する食の健康教育や栄養指導の実際を見学し、一部参加演習をおこなう。 （39 渡邊和香／2回） 母乳育児支援と乳房管理の演習をおこなう。</p>	オムニバス方式
助産研究レビュー	<p>本科目では、学生は日本語及び英語で発表された助産研究者が行った研究や、周産期もしくは助産ケアに関連した研究について検索し、得られた論文を精読する。エビデンスに基づいた助産実践と研究に対して、助産対象者への利益や意義を批判的に吟味し、自身で精読した結果をもとに、研究内容の検討を深める。また、周産期のガイドラインのエビデンスとなっている研究について学び、助産ケアが研究のデータ活用により更新されることについて理解を深める。さらに、助産実践に関わる生命倫理に関する文献を精読し、助産師に必要な倫理的姿勢を涵養する。</p>	
助産診断技術実習	<p>本科目では、助産診断技術学Ⅰ～Ⅲ等の科目での学修に基づき、分娩介助および妊婦、新生児・褥婦に対する助産診断・技術を実践することを目的に、対象者の同意と指導助産師の指導ならびに医師等の協力を得ながら、学生自らが助産過程を展開して実習をおこなう。全分娩介助事例を短期継続受け持ちしたうえで、その中から数例の長期継続事例を選択し、狭義には分娩第1期から1か月間、広義には妊娠期から育児期まで、継続的にケアを実践する基本的能力を涵養する。</p>	共同

	<p>新生児・乳幼児ケア論</p>	<p>本科目では、新生児期・乳幼児期の子どもを支援するために必要な基礎知識を教授する。学生の経験や研究テーマを、最新・最善のエビデンスについての知見を用いて吟味し、多様化・複雑化する社会で生きる子どもとその家族への最善のケアを意思決定できる思考プロセスを教授する。正常新生児、乳幼児期の子どもの発達、先天的もしくは出生後に出現する異常・疾患について教授する。さらに、集中治療を必要とするハイリスク児の病態やケアについて教授する。演習を通して新生児・乳幼児期の切れ目ない支援に必要な基礎技術を修得させる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (10 西村直子/9回)</p> <p>新生児・乳幼児支援について概説し、新生児・乳幼児の生理とフィジカルアセスメントについて教授する。ハイリスク児や医療的ケア児への支援について、家族の支援も含めて教授する。 (35 久呉眞章/6回)</p> <p>新生児の異常の早期発見と治療中のケアについて教授し、乳幼児の救急対応について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>助産管理論</p>	<p>本科目では、助産師を規定する法的根拠と関係する法規、および法に基づく日本国内における助産管理について教授する。これにより、助産師として病院、診療所、助産所および地域といった多様な臨床場面で助産に関する安全管理が実践でき、施設での助産評価の方法や、他職種、他医療機関や行政との連携、地域母子保健システムや母体および新生児の救急搬送システムについても発展的に理解できる。また、助産師教育システムとキャリアラダー、個人認証などに関する知識を教授し、学生自身がポートフォリオを作成できるよう支援する。さらに、災害時の助産や、グローバル社会における助産師の国際的な活動の実際についても教授する。</p>	
	<p>開業助産実習</p>	<p>本科目では、学生は医療機関から地域まで日本において実践されている助産を、モデルとなる助産師からの助言を自立的かつ適時に得ながら、自ら模倣し実施する。具体的には、地域包括ケアとして、医療連携の環境下の開業助産所を実習の中心的な場とし、妊婦健康診査、正常分娩の分娩介助の管理、産後ケア等の一連の助産を実習する。自立した助産師のモデルとして、開業助産師の実践を模倣しつつ、その責務に相応する知識・技術・態度を定着させるとともに、助産技術の根拠や成果を批判的に吟味する態度を涵養する。この実習をもって、本研究科での助産実践科学の学修を統合し、助産師教育課程修了時に求められるコア・コンペテンシーを修得させる。</p>	<p>共同</p>
<p>特別研究科目</p>	<p>看護研究演習</p>	<p>本科目では、共通科目の研究基盤科目で学修した知識を用いて、2年次の看護特別研究につながる研究計画を作成する。担当教員との面談だけでなく学生間の討議を交えながら、研究遂行への意識と研究の質の向上を図る。研究計画の段階では教員の指導の下、海外施設でのフィールドワークも含め、準備を行う。研究の最終的には2年次に受審する倫理審査の書類を完成させる。</p> <p>(① 大橋一友)</p> <p>国内外のグローバル社会での保健医療支援における適正技術の開発や人材育成のプログラム開発についての研究指導を行う。</p> <p>(② 河井伸子)</p> <p>様々な背景を持つ高齢者や慢性疾患患者の生活調整に関する研究や質的研究やアクションリサーチを用いた研究(急性期病院における高齢者看護、高齢者の終末期ケア、生活習慣病患者へのケア)についての研究指導を行う。</p> <p>(△ 嶋澤恭子)</p> <p>日本を含むアジアのリプロダクティブヘルス・ライツ、助産師の自律性や助産実践、異文化間看護についての研究指導を行う。</p> <p>(5 清水純)</p> <p>精神科救急急性期看護の研究や言語の数理解析を通じて、人の精神状態を評価するための研究指導を行う。</p> <p>(6 白井文恵)</p> <p>国内外の健康危機(感染症、虐待、DV、自殺、災害等)に対する保健活動のエビデンス構築についての研究指導を行う。</p>	

		<p>(③ 鈴井江三子) 国内外の看護職を対象とした看護技術・ケアの向上及び看護教育プログラムの開発についての研究指導を行う。また、女性や子どもへの暴力防止教育プログラムの開発についての研究指導も行う。</p> <p>(9 富松拓治) 周産期学の可能性と限界や新しいプレコンセプション教育に関する問題点についての研究指導を行う。</p> <p>(10 西村直子) 医療施設や地域など多様な場で生活する小児とその家族が、健康障害の有無にかかわらず「その人らしさ」を維持できる支援についての研究指導を行う。</p> <p>(11 藤井ひろみ) 年齢、性別、性的指向、性自認、国籍、宗教、信条、社会経済的地位、ライフスタイル、健康レベルなどの多様な人間の性（セクシュアリティ）の在り様とケアを、量的・質的に追究する研究（助産学研究、性機能障害への看護、看護とジェンダー研究）についての研究指導を行う。</p> <p>(⑤ 村上寛) 看護実践を支える技術が対象者の自立、安全、安楽の維持・向上を高め効率的であるための看護基礎教育における技術教育の評価と開発について、また、看護活動を支える工学的機器・技術の活用や開発についての研究指導を行う。</p> <p>(④ 山本純子) 在宅看護における多様な人々とその家族に対し、End of life care の意思決定支援に関する効果的な介入方法と地域ケアシステムにおける在宅療養者を支える継続的かつ実践的看護ケアの構築についての研究指導を行う。</p> <p>(14 エレーラ・ルルデス) グローバル化を生じさせている国内外での移住者の健康課題とその課題への取り組みに関する研究やその研究分野に活用できる概念、理論、根拠などについての研究指導を行う。</p> <p>(16 望月明見) ジェンダーやリプロダクティブヘルス・ライツに視点をおき、女性本人だけでなく、家族や環境を包括的に捉えたウイメンズヘルスの向上や、社会的ハイリスクな状態にある女性に対する健康支援についての研究指導を行う。</p> <p>(⑥ 矢野朋子) 地域で暮らす高齢者の介護予防に関する研究、地域の高齢者に対するACP（アドバンス・ケア・プランニング）についての研究と、要介護高齢者に対する看護職における栄養ケアについての研究指導を行う。</p>	
看護特別研究		<p>本科目では、各担当教員との個別指導により、研究の進捗状況を確認し、研究を円滑に進行させる。また、担当教員を中心としたゼミで、研究経過を報告し、教員や学生間での討議を行うことで、研究の問題点を早期に発見し、解決を図る。修士論文指導は担当教員との個別指導で行い、修士の学位の授与に関わる最終試験の準備を行う。修士論文の内容は積極的に学会等での発表を行う。</p> <p>(① 大橋一友) 国内外のグローバル社会での保健医療支援における適正技術の開発や人材育成のプログラム開発についての研究指導を行う。</p> <p>(② 河井伸子) 様々な背景を持つ高齢者や慢性疾患患者の生活調整に関する研究や質的研究やアクションリサーチを用いた研究（急性期病院における高齢者看護、高齢者の終末期ケア、生活習慣病患者へのケア）についての研究指導を行う。</p> <p>(△ 嶋澤恭子) 日本を含むアジアのリプロダクティブヘルス・ライツ、助産師の自律性や助産実践、異文化間看護についての研究指導を行う。</p> <p>(5 清水純) 精神科救急急性期看護の研究や言語の教理解析を通じて、人の精神状態を評価するための研究指導を行う。</p>	

(6 白井文恵)
国内外の健康危機（感染症、虐待、DV、自殺、災害等）に対する保健活動のエビデンス構築についての研究指導を行う。

(3 鈴井江三子)
国内外の看護職を対象とした看護技術・ケアの向上及び看護教育プログラムの開発についての研究指導を行う。また、女性や子どもへの暴力防止教育プログラムの開発についての研究指導も行う。

(9 富松拓治)
周産期学の可能性と限界や新しいプレコンセプション教育に関する問題点についての研究指導を行う。

(10 西村直子)
医療施設や地域など多様な場で生活する小児とその家族が、健康障害の有無にかかわらず「その人らしさ」を維持できる支援についての研究指導を行う。

(11 藤井ひろみ)
年齢、性別、性的指向、性自認、国籍、宗教、信条、社会経済的地位、ライフスタイル、健康レベルなどの多様な人間の性（セクシュアリティ）の在り様とケアを、量的・質的に追究する研究（助産学研究、性機能障害への看護、看護とジェンダー研究）についての研究指導を行う。

(5 村上寛)
看護実践を支える技術が対象者の自立、安全、安楽の維持・向上を高め効率的であるための看護基礎教育における技術教育の評価と開発について、また、看護活動を支える工学的機器・技術の活用や開発についての研究指導を行う。

(4 山本純子)
在宅看護における多様な人々とその家族に対し、End of life care の意思決定支援に関する効果的な介入方法と地域ケアシステムにおける在宅療養者を支える継続的かつ実践的看護ケアの構築についての研究指導を行う。

(14 エレーラ・ルルデス)
グローバル化を生じさせている国内外での移住者の健康課題とその課題への取り組みに関する研究やその研究分野に活用できる概念、理論、根拠などについての研究指導を行う。

(16 望月明見)
ジェンダーやリプロダクティブヘルス・ライツに視点をおき、女性本人だけでなく、家族や環境を包括的に捉えたウイメンズヘルスの向上や、社会的ハイリスクな状態にある女性に対する健康支援についての研究指導を行う。

(6 矢野朋子)
地域で暮らす高齢者の介護予防に関する研究、地域の高齢者に対するACP（アドバンス・ケア・プランニング）についての研究と、要介護高齢者に対する看護職における栄養ケアについての研究指導を行う。

学校法人大手前学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大手前大学				大手前大学				
国際日本学部 国際日本学科	190	2年次 4 3年次 2	776	国際日本学部 国際日本学科	<u>160</u>	2年次 4 3年次 2	<u>656</u>	定員変更(△30)
建築&芸術学部 建築&芸術学科	180	2年次 4 3年次 2	736	建築&芸術学部 建築&芸術学科	<u>170</u>	2年次 4 3年次 2	<u>696</u>	定員変更(△10)
現代社会学部 現代社会学科	220	2年次 4 3年次 2	896	現代社会学部 現代社会学科	<u>200</u>	2年次 4 3年次 2	<u>816</u>	定員変更(△20)
健康栄養学部 管理栄養学科	80	3年次 16	352	健康栄養学部 管理栄養学科	80	3年次 16	352	
国際看護学部 看護学科	80	-	320	国際看護学部 看護学科	80	-	320	
				経営学部 経営学科	<u>170</u>	2年次 2 3年次 7	<u>700</u>	学部の新設(届出)
計	750	2年次 12 3年次 22	3,080	計	<u>860</u>	2年次 14 3年次 29	<u>3,540</u>	
現代社会学部 現代社会学科 (通信教育課程)	500	3年次 500	3,000	現代社会学部 現代社会学科 (通信教育課程)	500	3年次 500	3,000	
計	500	3年次 500	3,000	計	500	3年次 500	3,000	
大手前大学大学院				大手前大学大学院				
比較文化研究科 比較文化専攻(M)	10	-	20	比較文化研究科 比較文化専攻(M)	10	-	20	
比較文化研究科 比較文化専攻(D)	3	-	9	比較文化研究科 比較文化専攻(D)	3	-	9	
				国際看護学研究科 看護学専攻(M)	<u>12</u>	-	<u>24</u>	研究科の新設(認可申請)
計	13	-	29	計	<u>25</u>	-	<u>53</u>	
大手前短期大学				大手前短期大学				
ライフデザイン総合学科	150	-	300	ライフデザイン総合学科	<u>100</u>	-	<u>200</u>	定員変更(△50)
				医療事務総合学科	<u>50</u>	-	<u>100</u>	学科の新設(認可申請又は届出)
歯科衛生学科(3年制)	80	-	240	歯科衛生学科(3年制)	80	-	240	
計	230	-	540	計	230	-	540	